学校番号	1016

令和８年度　文化芸能研究科

教科	文化芸能研究	科目	異文化研究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「新詳高等地図※令和４年度以降入学生用」（帝国書院）						
副教材等	自作プリント　等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

多文化共生の進む中、さまざまな国や地域の交流をおこなうにあたってまず必要なことは、お互いの文化や習慣を尊重しあうことである。本授業においては世界各地の文化や宗教などの概念を学ぶだけでなく、その地域の現状、実際におこなわれている慣習を主体的に調べて学び、より積極的な理解とプレゼンテーションをおこない、国際的な思考。感覚を身につけることを主眼とする。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
歴史総合、地理総合を基礎とし、日本の近代化に大きな影響を与えた西洋文化を中心にその知識を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
世界の宗教観のより深い考察、世界各地の観光資源の学習と景にある歴史の探求をおこなうだけでなく、日本の文化と世界の文化を比較し、プレゼンテーションを通じて多様性を学び、共有し伝える力をはぐくむ。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的にグローバル社会の形成の参画する態度と多様性を認める姿勢を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界各国の歴史的・文化的・宗教的な知識の学習や、実際に世界各地を旅行する際に必要である知識も学んでいる	なぜ多種多様な文化が生まれたかを、現実の社会や風習を考察することによって調べ、それを論文形式、あるいはプレゼンテーションによって深化・共有している。	各人が興味のある地域を選択して調べ、さまざまな方法を使って調査する。言葉によるものだけでなく、視覚的にも工夫して発表できるか取り組む。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	欧州各国の歴史と文化	イギリス・フランス・イタリアの世界遺産の学びを軸として各国の歴史や文化的背景を学ぶ。	a:各国の歴史的知識とその現状に対する認識がある。 b:各国の現状における課題やこれからのあり方について自分の意見を述べる。 c:各国の歴史や現在の情報を得るために自発的に取り組む。	テスト	ワークシート	授業記録シート
	旅行パンフレットの作成	ヨーロッパ諸国への旅行や文化をまとめたパンフレットの作成をおこなう。見開きで分かりやすく、対象となることがらの内容が伝わるものを作成する。	a:記載する各国の情報が正確に記述できている。 b:情報を単に羅列するだけでなく、視覚的に見やすいレイアウトやデザインに工夫されている。 c:独自の視点にもとづき、各国の情報を深く調べている。	作品	作品	授業記録シート
2	海外旅行	先の単元で学んだことを基礎に、世界各国へ行くにはどのような知識や行動が必要であるかを学習すし、共有するためプレゼンテーションをおこなう。	a:海外旅行の基礎知識が学習できている。 b:実際旅行に行ったときに考えられる事態を予測し、その対処法を考えている。 c:知識・考えを発表するにあたっての工夫や努力がおこなわれている。	プレゼンテーション	プレゼンテーション	授業記録シート
	世界三大宗教	世界三大宗教(キリスト教・イスラム教・仏教)に関して学び、それが現在の世界にどのような影響を与えているかを学習する。	a:三大宗教の誕生から現在の状況について学習できている。 b:三大宗教が与えた文化的事象や各国の在り方への考察ができている。 c:これまで学習した知識をもとにワークシートを完成させることができる。	テスト	ワークシート	授業記録シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
3	アメリカの文化	興味あるアメリカ合衆国の文化に関する資料収集をおこない、その特徴や課題についてプレゼンテーションをグループワークでおこなう。	a:アメリカ文化のより深い認識ができている。 b:調べたことに対して、アメリカ文化への考察ができ、それをわかりやすくプレゼンテーションをおこなう。 c:共同作業を積極的におこない、プレゼンテーションを円滑におこなう。	プレゼンテーション	プレゼンテーション	授業記録シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度